

2026.04.06 始業式

2026年度が始まりました。新しい学年、新しいクラスでの生活の始まりです。

お話ししてきたように、今年度からは授業5日制がスタートし、土曜日の在り方も変わります。毎年4月は新年度のスタートであり、新しい出発ではあるのですが、例年以上に大きな節目となる新年度だと言えます。

その年度初めにみなさんと共有したいのは卒業生の言葉です。

先月3月15日に高校3年生は本校を卒業していきました。卒業に際し、卒業生のみなさんは6年間を振り返っての感想を記していきました。今日は何人かの卒業生の文章を共有しながら、大きく二つのことをお話ししたいと思います。

まず、最初の人ですが、この方は、進路を選ぶうえで一番影響を受けたこととして「海外研修」を挙げながら、次のように書いています。

「学校のサポートのもと行われたものではあったけれど、日本とは違う文化に触れて、その国特有の文化などを身をもって感じたので、もっと知りたくなったり、そういう環境に身を置いて視野を広げたいと思いました。とくにその国特有の言語がもつニュアンス、ネイティブにはわからないスラングやノリなども含めて、もっとたくさん知りたくなって、研修に行ったことで私が興味をもっていること、大学でやりたいことがはっきりしました。研修を体験したことで日本に帰ってきてからも海外のニュースに注意を払うようになって、文化の違い、宗派の違いが戦争を生み、差別を生んでいることが悲しくて、でもどっちが間違っているとは言い切れないものなので、少なくともそれぞれの文化・考え方の背景を学んでから自分の考えをもちたいと思うようになりました。そこで大学受験では国際系を選び、多文化共生を学べる学部を志望しました。短い期間の研修が自分の進路を決めることになるとは思わなかったもので、とてもいい経験でした」

もう一人、別の方も紹介します。彼女は今一つ勉強に真剣に向き合えない状況が続いていましたが、それが少しずつ改善する中であるきっかけと出会いました。

「転機は政治・経済の授業で行った裁判傍聴のときでした。その頃はもともと政治・経済の授業で日本国憲法にハマリ、少し勉強が好きになりかけていました、傍聴の際、初めて直に法曹の方々がいる場面を見、感激しました。私が勉強した条文や法則が現実世界ではこのように使われているのだなという発見と同時に法律という学問を極めた先で、それを仕事に働いている法曹の方々の姿に魅了されたのです。それまではドラマや何か間接的なもので興味を持ち、特定の職業にあこがれを抱くことが多かったのですが、実際の仕事現場を見て、というのはそれが初めてでした。その時は、付き添ってくれた2人の弁護士さんに夢中で質問しました。そして、その後の政治・経済の授業で、人権や憲法に関わる内容の時は、いつも以上に積極的にメモをとったり、質問したり、私の中の小さな“法学”を極めていったのです。それから徐々に他の科目の勉強にも抵抗がなくなり、勉強が好きになっていきました。そして勉強で大事なものは、いかにそれを自分ごととして捉えられるかであると気がつきました」

「心に残る瞬間」を
逃さない！



「そのまま」に
しない！

今、2人の人の感想を紹介しましたが、2人の卒業生にはいくつかの共通点がありましたね。

一つは、学校の行事が大きな転機になったことです。こうした行事は、誰か1人の人が体験するものではなく、学年全体であったり、その授業を選択した人がみな、共通に体験するものです。しかし、それが心のアンテナに引っかかるかどうかはその人次第です。もちろん、人間にはそれぞれ個性があり、興味や関心も異なるので、ある人にとって心のアンテナに引っかかるような、大きな印象に残る行事であっても、別の人にはそれほどでもないということはよくあることです。ただ、大切なのは、どこかで自分の心のアンテナに引っかかる瞬間があったならば、それを逃さないことです。最初の方は、海外研修が、二人目の方は授業で向かった裁判傍聴が心のアンテナにかかりました。そして、二人ともその瞬間を逃さなかったわけです。

もう一つの共通点は、心のアンテナにひっかかったその出来事を「そのまま」にしなかったということです。最初の方はその後、海外の事情をより深く知ろうと、国外のニュースもそれまで以上に真剣に見て、考えるようになりました。世界情勢という意味では、今も紛争や戦争が起こりつづけており、それが日本にも影響を及ぼしています。今紹介した先輩も戦争のことに触れていますが、世界のことは知れば知るほど考えるべきことが多いという事実には私たちは気づかされます。

二人目の方は、政治・経済の授業に、それまで以上に真剣に臨むようになっていった、と書いています。学ぶべきことをつかもうと思って自ら臨む授業は、ただ先生の言葉を受け取るだけの姿勢で臨むのとは、その実りが大きく異なるはずです。このように、二人とも自分の興味をもったことを、より掘り下げる努力をしていったわけですね。

私たちは誰にでも、心を動かされたり、感動をしたりする瞬間があります。ただ、その瞬間をそのまま「ああよかった」で終わらせるのか、「もっと知ろう」「もっと深めよう」と思うかで、その後の成長は大きく変わってくる、ということが2人の先輩の文章から感じ取れると思います。

今年から土曜日には「KG OPEN HUB」もスタートします。受講が必須の高2以下のみなさんに対してはI期の申し込みを終えましたが、多くの方が最低限の1講座ではなく、より多くの講座を選ぼうとしていることは、とても心強く思います。逆に、申し込みが多すぎて希望通りにいかない場合も少なくないので、それは心苦しくもあるのですが、実際の講座ではぜひさまざまな、心のアンテナに何かがかかると感じる瞬間をたくさん経験してほしいと思っています。そして、その後さらに自分なりに調べたり、考えたり……そうしたことができるとすばらしいと思っています。KG OPEN HUBの選択結果は近日中にみなさんに配付します。

さらに付け足しますが、今の話はKG OPEN HUBに限りません。先輩方のように研修や外部の見学であるかもしれませんが、そんな特別な場面ではなく、普段の授業や部活動、委員会等の中で心のアンテナにかかる瞬間がやってくるかもしれません。また、大学との新しいつながりもあります。去年はフェリス女学院大学と日本女子大学と新たに連携協定を結び、これで本校が協定を結んだ大学は5校になりました。こうしたつながりから、大学の学びを知る機会もより増えていきます。こうした一つひとつの瞬間を大切にしながら、自分の成長に結びつけてほしいと思っています。

さて、二つめのお話です。

卒業の感想の中では、ほとんどの卒業生が、「周りの人たちに支えられた」という言葉を口にしています。

ある卒業生はこんなふうに書いています。

「6年間を通して、KGの先生方の温かさを本当に感じたのと、まわりにいる子たちの安定感・安心感をとにかく感じたように思って、すごくアットホームな時間でした。友人たちもみな落ち着いていて、居心地の良さを感じました。……この6年で出会った人たちをこれからも大切に過ごしたいと思います」

KG OPEN HUB



大学とのつながり

フェリス女学院大学
日本女子大学

多くの人が同じような感想を述べています。もう一人卒業生を紹介しますが、彼女は具体的な二人の友だちについて触れています。

「……このような授業の大切さを教えてくれたのは私の友だちです。彼女はほんとうに寛容で、英・国のグレードもずっとαで、メリハリがあり、とても尊敬すべき友だちです。彼女と2年間同じクラスになって、彼女と試験勉強をするうちに効率的な学習方法や、授業をしっかり聞けば分かるという、とても初歩的なことを学びました。試験でも点がとれるようになって成績が上がり、勉強を楽しむことができるようになりました。また、他の友だちは、部活と両立しながらほんとうに自学もがんばっていて、学校にも遅くまで残って勉強をしていた印象があります。一生懸命勉強しているのを見て、私も問題集を解くモチベーションが上がり、量をこなしていこうと思うことができました」

今回彼女の感想を紹介しようと思ったのは、「成績が上がった」人だからではありません。もちろんそれは結果として素晴らしいことですが、そのきっかけが、友だちから謙虚に学ぼうとした、その姿勢にあるという点です。彼女は二人の友だちから学び、自分の学習法を変えていったのだと思います。その結果として、成績もついてきた、ということなのですね。

彼女は自分が受けた影響だけしか書いていませんが、おそらくそうした「一方的な」関係性ではなかったのだと思います。自分も相手から学び、同時に相手も彼女から何かを受け取っていたのだと思います。

今日、みなさんは新しいクラスメートと出会いました。高3のみなさんはクラス替えこそありませんが、これからの生活の中で、「知っている」と思っていた友だちの新しい面に出会うかもしれません。また、各学年とも選択科目やグレード等、クラスを超えた出会いもあります。そうした出会いの中で、もし気の合う人や「素敵だな」と思う人に出会えたならば、その人からぜひさまざまなことを学んでいきましょう。同時に、そうした謙虚に学ぶ姿勢があれば、あなた自身も相手に人が受け取れる何かを渡せるはずです。そうした関係性の中で、人は成長していきます。ぜひ、新しい人間関係をお互いが成長しあえる関係に高めてほしいと思っています。

友だちから学ぶ

お互いに学ぶ



そして、みなさんは、新しい学年に「自動的」に進級したわけではないことを改めて確認したいと思います。高校2・3年生は必要な単位を取得して1学年上がったわけですし、高校1年生は「高校進学を選び取って」の高校入学です。中学生は「義務教育」ですが、それぞれ中学1年・2年の課程を終えて進級しました。みなさんは踏むべき過程をしっかりと踏んで、一段階「ステップアップ」をしたわけです。

その「ステップアップ」した新学年をより充実させるために、今日お話したこと……心のアンテナにかかる瞬間を逃さないこと、また、それを自分の中で大切に育てること、そして新しい人間関係を大切に育て上げること……を大切に過ごしてほしいと思っています。

また、新しい年度、新入生もお迎えします。今年も多くの新入生が明日の入学式を待っています。今年の中1は200名を超えていますが、210名を超えてはいないので、5クラスで運営します。

さて、新入生を迎えるにあたって、明日の入学式も青春PR部のみなさんや、吹奏楽部、コーラス部の方に協力していただきますが、この春休みは書道部と美術部のみなさんが準備をしてくださいました。気持ちをこめて新入生を迎えていきましょう。

以上をもちまして始業式の話といたします。